

第4章

レパートリー

曲紹介

Repertoire
Song Introduction

米子流がいな太鼓の特徴

米子流がいな太鼓の曲のコンセプトはオーケストラ風の「リズム組曲太鼓」であり、音楽性を重視し音色の異なる楽器を駆使して、それぞれのパートが異なったパターンを演奏します。それが複雑に絡み合って、「四季が移り変わる」ように、また言い換えれば「起承転結」の如く曲が変化していく、まさに「オーケストラ・リズム・アンサンブル」であります。一方、太鼓を打つ時に大切にしているのは、武道にも似た切れのある所作であります。所作は「舞いであってはいけない」それが「米子流」の考え方です。その所作とリズムが相まって独特な雰囲気をかもし出します。

大人連

1.がいな太鼓(作曲/天野宣)【演奏時間 13' 40"]

- 1樂章 唄い込み 伝統的な祝いの木遣りを、太鼓組曲の最初に高らかに唄い上げます。
 2樂章 若衆 粋な米子の若者が、伝統芸能である和太鼓を打つ意気込みを表現します。
 3樂章 山彦 打てば響く素晴らしい米子市民の気質を山彦にたとえ、末永く響けと打ち込みます。
 4樂章 荒波 日本海の荒波を日本古来の打楽器、大太鼓で表現します。
 5樂章 建設の響き 盛り上がる米子の活力と底力を、建設の槌音高く世に示します。
 6樂章 祭り 躍動する若者の新しい感覚が見事に「がいな祭」に咲き誇れとの願いを込めて、たたみ込むように演奏します。
 以上6樂章の太鼓組曲は力だけでは響かない、高度な精神力が要求されます。

2.旋風「旋喜の曲・真風の曲」(作曲/本田幸男)【演奏時間 16' 00"]

- 1樂章 旋喜の曲 楽しさや喜びは人々を幸せにします。これからもそんな人生であってほしいとの願いを込めて、喜びが旋《まわ》るようなお囃子で皆さまを「旋喜の曲」のうずくに巻き込みます。
 2樂章 真風の曲 奏者の打ち鳴らす太鼓の音の響きが真の風となって伝わり、皆さま方の心に響き渡ります。次から次へと変化する、テンポの良いダイナミックな「サウンド」と、切れのある所作が特徴です。

以上の2樂章で構成された「旋風」は、まさに米子を代表する「オーケストラ・リズム・アンサンブル」です。

3.がいな囃子[わかとり](作曲/本田幸男)【演奏時間 2' 10"]

大人のメンバーで演奏する軽快なお囃子で、「がいな祭」のオープニングで打ちながら練り歩きます。また、鳥取県和太鼓連盟コンサートのエンディング曲「わかとり」としても演奏していました。

4.ニュー・オープニング(作曲/本田幸男)【演奏時間 1' 15"]

演奏の初めに太鼓で皆さんにご挨拶をする曲で、「皆さまこんにちは」の意味を込めています。

5.エンディングテーマ「喜楽」(作曲/本田幸男)【演奏時間 12' 45"]

「がいな祭」また、「コンサート」のエンディングとして作曲された曲で、「喜び、楽しさ」を表現したリズムを、演奏者全員で躍動しながら表現します。

6.轟《とどろき》(作曲/本田幸男)【演奏時間 10' 50"]

「がいな太鼓」は十数名の構成で演奏する太鼓組曲が基本ですが、「轟」は少人数で演奏します。「轟」は奏者が発する音のうねりです。中高音の太鼓の「轟」は心に、そして重低音の太鼓の「轟」は魂に伝わっていきます。

1.夢・追・人(作曲/本田幸男)【演奏時間 11' 00"】

いつしかバチをにぎり始めた。そして太鼓の響きのとりこになった。打てなくて悩んで苦しんだ。ついにひとつの壁を乗り越えた。そしてまた、悩んだ。その繰り返し…この不思議とも言える太鼓の魅力。「人は夢を追いかける…」

準師範以上で構成する「匠」のオリジナル曲は、「太鼓をアドリブで楽しく打つ」をテーマに、その思いをこの曲に託し、太鼓と篠笛で表現します。

2.飛天(作曲/本田幸男)【演奏時間 3' 20"】

龍が天に昇るが如くの3台のやぐら太鼓による迫力ある響、それはまさに天驅けるサウンドです。そして早馬(はやうま)が野を駆け巡るような太鼓のリズム、その大部分が奏者のアドリブ演奏です。

匠**3.美《うつくし》(作曲/本田幸男)【演奏時間 8' 45"】**

日本の四季は人生にも似ています。人の一生、喜怒哀楽その生き様… 一人の旅人が日本の四季を巡るために旅立ちます。若葉が芽吹き、小川のせせらぎや、小鳥の鳴き声が聞こえてくる穏やかな春の季節、やがて太陽がぎらぎらと照りつける情熱的な夏へと季節は移り、徐々に樹木が色づいていくあでやかな秋へ。そして季節は厳しい真っ白な冬に移って行きます。移り行く日本の四季にだんだんと旅人の心は洗われ、新たな希望を胸に、雪原をそりでふるさとを目指して疾走します。日本の原風景である美しい四季。旅人の郷愁を太鼓のリズムと篠笛の音色で表現します。

4.薰風(作曲/本田幸男)【演奏時間 5' 40"】

初夏、新緑の間を吹いてくる快い『こころよい』風のことで、やわらかい薰るような風は人々の心を和ませてくれます。篠笛と高い音色の締め太鼓そして重低音のやぐら太鼓の三重奏で演奏します。

1.鼓響=日本海=「暖流・寒流」(作曲/本田幸男)【演奏時間 15'10"】

夏の激しい日差しが照りつける日本海。それはどこまでも青く、澄み切った穏やかな海。若者たちは波に乗り、浜辺では波と戯れる子供たちの歓声が聞こえてくる。やがて太陽は水面に沈み、夕暮れが訪れる。そして静かな波の音だけが残る… 日本海は貝殻節がよく似合う。波の音に打ち消されながら、どこからともなく聞こえてくる。冬になると、漁師は荒れ狂う波と闘いながら漁をする。やがて波は岩場に怒濤の如く打ち寄せはじめる。そんな日本海の激流は、やがて人々の心の叫びとなって響き渡る… この二つの対照的な日本海を暖流、寒流に例え太鼓と篠笛で表現します。

2.県西部創作郷土芸能「尼子再興=勝田浜合戦・山中鹿之介幸盛」(作曲/本田幸男)【演奏時間 17'00"】

約450年前、中国地方に強大な勢力を誇っていた尼子家と、安芸の小国から尼子家の領地を奪い取り、次第に大国となった毛利家との壮烈な勝田浜(米子地方)での戦を表現した「勝田浜合戦」と、忠義の武将で果敢に戦い、最後まで尼子家再興を目指した「山中鹿之介 幸盛」の二曲からなる、和太鼓による創作郷土芸能です。

極**1樂章 勝田浜合戦**

尼子軍、毛利軍を異なるチームが演奏し、和太鼓で両軍の合戦を表現します。

尼子軍が攻め、そして毛利軍が攻めます。続いて両軍の侍大将による一騎打ちが展開します。再び尼子軍が攻め、それを受け毛利軍が逆襲します。両軍が激突し壮烈な戦へと展開していきます。やがてひとまず戦は終わり、勝田浜は静けさを取り戻しますが、そこには戦によって倒れた兵の姿が…遠くから両軍の物見であろうか馬が駆けて行く中、戦場は静かに霧に包まれます。…そして最後の戦が再び繰り広げられていきます。

2樂章 山中鹿之介幸盛

山中鹿之介が天に向かって叫んだとされる「願わくば、我に七難八苦を与えたまえ!」から曲は始まります。山中鹿之介は稀に見る忠義の武将と言われるよう、ひたすら尼子家再興を目指します。しかしながら、もはや毛利を討つことは叶わず、囚われの身となった山中鹿之介は死期を悟ります。そんな山中鹿之介の無念な胸中、迎える最期。やがて山中鹿之介の尼子家を想う尊き魂は、天へと召されて伝説となっていくのです。その様を、静かに太鼓と篠笛で表現します。

本組曲は鳥取県文化振興財団の企画により、「旋風」「鼓響・日本海」「幻奏」を編曲し、オリジナルの部分を加えて新たに創作した県西部の創作郷土芸能であり、2007年に開催された「鳥取県青少年郷土芸能の祭典」で初演された曲です。

極

3. 雄飛「calm《カーム》・beat《ビート》」(作曲/本田幸男)【演奏時間 15'30"]

雄飛とは「鳥が舞い上がるよう勢いよく活躍する」という意味です。また、「日本人が世界に向けて羽ばたくこと」という別の意味もあります。この曲には双方の思いを込めています。

1楽章 calm《カーム》 「calm」は「和やか、穏やか」ということで、羽ばたく前の日本人の心を表現します。

2楽章 beat《ビート》 「beat」は「音のうなり、響き」を意味し、勢いよく世界に羽ばたいていくことを表現しています。和の穏やかなリズム、一転して洋の軽快なリズムの「和太鼓アンサンブル」です。

4. 風雅(作曲/本田幸男)【演奏時間 16'00"]

米子がいな太鼓の20周年を記念して結成された「極」の初のオリジナルとして作曲された曲であります。「風雅」は趣があるという意味であり、日本古来のリズムに西洋的なリズムをアレンジし、鉦と太鼓の掛け合い、やぐら太鼓のアドリブ演奏など、独特な雰囲気をかもし出している曲です。

1. 招福除災祈願「幻奏」(作曲/本田幸男)【演奏時間 12'20"]

太鼓の響きは人生に夢や希望を与えるものであってほしい。そんな「招福除災」の願いを込めて、太鼓と篠笛で「幻奏」の世界を表現した曲です。

人生それは幻なり 喜怒哀楽それも幻なり 人々は喜びや悲しみは幻であってほしくないと願う 人々は怒りそして悲しむ時 それから逃れようと幻を見る 空想の世界 幻想の世界 その「幻奏」の間だけ人々は現実から逃避する

2. PASSION=情熱=(作曲/本田幸男)【演奏時間 10'15"]

若連7曲目のオリジナル曲であり、太鼓を打つ「情熱」をこの曲に託しています。軽快な太鼓のリズムと篠笛とで、思わず体が動きそうになるほど小気味よく曲が展開します。和の楽器と洋のリズム、まさに「パーカッション・リズム・アンサンブル」です。

1. リズムヴァリエーション「響」(作曲/本田幸男)【演奏時間 11'15"]

人はそれぞれに独自のリズム感覚を持っています。自分に合ったリズムが聞こえてくると、自然に体の動きを覚えます。

「米子がいな太鼓」の曲の中で、リズムベース部門を受け持っている楽器「締太鼓」、その音色は高く、リズムを表現するのには最適な楽器と言えるでしょう。また、ボンゴ、ウッドブロック、カウベル、ササラといったパーカッションを使い、様々なリズムを表現したこの曲は、まさに「お囃子の西洋版」と言えるでしょう。

2. 暁《あかつき》(作曲/本田幸男)【演奏時間 8'56"]

暁とは太陽が昇る前のほの暗いころのことで、時を暁《あかつき》、東雲《しののめ》、曙《あけぼの》の3つの言葉で刻み、「待ち望んでいたことが実現すること」という意味があります。この曲に、若者が夜明けと共にエネルギーに活動し、夢をかなえるという願いをこめています。

1. いぶき(作曲/清水達夫)【演奏時間 10'50"]

厳しい冬が終わると日ごとに暖かくなり、草木が芽吹き春が訪れます。そんな春到来の様子をモチーフとした曲です。

「春雷」「大地の目覚めいぶき」「薰風《くんぶう》」の3楽章により構成されており、自然の躍動を体で感じていただけるように心を込めた曲です。

2. 天馬(作曲/杉村 聰)【演奏時間 13'50"]

皆さま方に感謝の意味を込めて、そして「錦聚連」のこれまでと、これから発展の願いを込めて、自ら翼を持ち天空を力強く駆け抜ける「天馬」の如く羽ばたいていく思いの曲です。

1楽章 翼 翼を持った若い「天馬」が力強く羽ばたきながら地上から昇っていき、天空に到達する様を表現します。

2楽章 天翔《てんしょう》 空間に到達した「天馬」が天上界を優雅に、そして楽しく駆け回る姿を、軽快なリズムで表現しています。

若獅子

錦聚連

錦
聚
連酸
友
連若
あ
ゆ
連颯
（はや
て
連

- 3樂章 駿快 篦笛の心地よく清らかな音色に続き、大小の締太鼓と鉦のリズムミックスで、「天馬」の爽快な心を表現します。
4樂章 勇心 どのような強い嵐にも恐れずに、真正面から立ち向かい成長していく「天馬」の姿を、和太鼓を力強く打ち込む音と気迫で表現します。

3.俊爽《しゅんそう》(作曲/脇水郁紀子)【演奏時間 8'15"]

「俊爽」とは山などが高くすっきりしている様を表した言葉です。我が郷土の空にはいつも大山があり、その美しい景観は私たちの心を和ませ、時に勇気づけてくれます。この曲は、いつも私たちを励ましてくれる大山をイメージしたものです。大山のように聰明に、吹き抜ける風のように軽やかに、時に柔らかく、時に荒々しく演奏します。

1.義友合奏(作曲/本田幸男)【演奏時間 11'40"]

酸友連は民間の企業体チームであり、同じ職場で働く仲間で結成されたチームです。みんなで声掛け合って、時には励まし合い、苦楽を共にしてきました。そんな「義」を持った「友」、その絆を太鼓で表現します。重厚なリズムがやがて絆を表すかのように軽快なリズムへと変化し、やがて絆は結ばれていきます。

2.Ring(作曲/松浦絢二)【演奏時間 8'10"]

それぞれの打ち手のソロ演奏が、まるで心がつながるようにリレーしていく、打ち手の心のきらめきを激しいリズムに乗せ、文字通り「リング《輪》」を作っています。結成当時の原点に立ち返り、ただ無心で太鼓を打つ力強さと、打ち手の絆の和を表現しています。

1.若鮎(作曲/仙田裕二)【演奏時間 6'20"]

日野川を元気に泳ぐ鮎をイメージし、メンバーをその鮎に例えました。曲の前半で若さが満ち溢れ楽しく泳ぐ様を、後半では逆流にも臆することなく、何事にも挑戦して行く様を表現しています。

2.駆翔《かける》(作曲/仙田裕二)【演奏時間 7'00"]

青春という時代は多感で悩み多き時期です。大人になる過程の入り口に立つ高校生は、それに立ち向かっていかなければなりません。そんな時は一人じゃなく、同じ道を歩む仲間との絆を深めて、上を目指して一步一步駆け上がるべく、若さを爆発させて「駆翔」を打ち込みます。

1.颯ver.2(作曲/仙田英人 編曲/本田幸男)【演奏時間 7'45"]

若々しく、エネルギーで颯爽《さっそう》たる曲、それが「颯連」のオリジナル曲「颯 ver.2」です。小学生の「子供連」を卒業して中学生になり、子供から大人へと成長する過程の中で、まさに「颯爽」と言う言葉がふさわしい曲に仕上げました。最初の曲「颯」を編曲し、更にパワーアップさせた曲となっています。

2.GOGYO(作曲/青砥宏英)【演奏時間 8'00"]

古代中国より伝わり、日本で発展した「陰陽《おんみょう》五行思想」。この世界は土、水、火、木、金の元素で成り立つと言います。一年もまた五つの季節(節句)で成り立っています。遠雷響く激しい冬(土)、雪解け水溢れ花芽吹く春(水)、熱く燃える灼熱の夏(火)、緑と実りに盛る秋(木)、そして季節が移り行く(金)。子供から大人への変化と成長を一年五行に例え表現しています。

子供連

1.お祭り太鼓(作曲/天野宣) 【演奏時間 2'50"]

「がいな太鼓」が創立された年から数えて3年目、昭和51年に子供連が誕生しました。その時に作曲されたのがこの「お祭り太鼓」です。米子流がいな太鼓の特徴は「オーケストラ風リズム組曲太鼓」ですが、「お祭り太鼓」にもその特徴があります。曲中に子どもたちが順番に打っていくところがありますが、そこがリズムの掛け合いになっており、「リズム組曲」の基礎を学び、リズム感を養う曲です。

2.打ち込み太鼓[リズム遊び](作曲/天野宣) 【演奏時間 4'25"]

「がいな太鼓」を長く存続させていくためにも子どもたちの育成はとても大切です。基本的なリズムを習得した子どもたちが、「リズム組曲」の登竜門として演奏する曲がこの「打ち込み太鼓」です。子どもたちの中でも上級生のみしか演奏できない、打込む力と高いリズム感が必要とされています。

3.流星(作曲/勝中浩美 編曲/本田幸男) 【演奏時間 3'45"]

流れ星に願いを込めるように、「我が子が将来立派に成長してほしい」との親の思いを太鼓に託して、遠い夜空に星々がきらめく中、ひときわ輝く星が一筋の光となって流れていく様を表現した曲です。

4.オープニング・ジュニアバージョン(作曲/本田幸男) 【演奏時間 1'25"]

太鼓で「皆さんこんにちは」と、ご挨拶をする曲です。子供連に入り初めに習得する曲で、最もベーシックな4分音符、8分音符のリズムを学びながら、太鼓に慣れていく。そんな曲になっています。

5.やんちゃ太鼓(作曲/本田幸男) 【演奏時間 4'55"]

子供連の共通曲として新しく作曲したのが、この「やんちゃ太鼓」です。その大きな特徴は、「がいな祭」ですっかり定着している「やんちゃパレード」のお囃子を、太鼓の曲の中で表現しているところです。その名の通り、子どもたちの元気でやんちゃな演奏がお楽しみいただける曲です。

6.凜《りん》(作曲/本田幸男) 【演奏時間 4'40"]

子どもたちは何色にも染まっていない真っ白な心、すなわち「清らかさ、美しさ」と同義的な意味を持つ「凜」とした心を持っています。子供連は毎年、6年生が卒業し、新しい子どもたちが入ってきます。その度に人数は変動し、時には6~7名位になる時もあります。そんな少ないメンバーでも演奏できる曲であり、子どもたちの清らかで、美しい「凜々しい心」を表現しています。

1.KODAMA(作曲/仙田英人) 【演奏時間 4'40"]

子どもは計り知れないパワーと、大人が忘れていた素直な心を持っています。それを太鼓で表現させたいとの思いをこの曲に込めています。子どもたちの元気な掛け声と、太鼓を打ち込む響が山に「こだま」し、皆さまの心に届きます。

1.大宙《おおぞら》(作曲/本田幸男) 【演奏時間 4'20"]

大きな宙《そら》それは子どもたちを想う父や母の心です。「元気に成長してほしい。立派に輝く大きな星になってほしい」との親の想いに対し、それに応える子どもたちの心を太鼓で表現しました。子どもたちそれぞれの輝きをこの「大宙」にちりばめています。

1.結《ゆう》(作曲/杉村聰) 【演奏時間 7'15"]

「結」という言葉は縁を結ぶ、手を結ぶ、人と人のつながりや、お互いに助け合うという意味があります。この曲には子どもたちがこれから的人生でたくさんの良い縁を作り、多くの人たちと手を携えてほしいという願いを込めています。曲の特徴はテンポとりズムパターンの変化にあります。速くなったり遅くなったり、時には強く、時には優しく、全ての奏者の心が一つにならないと表現できません。一人ひとりが点から線につながって一つになって、心に響かせます。

2.結《ゆう》・新た《あらた》(作曲/杉村聰 編曲/本田幸男) 【演奏時間 6'15"]

オリジナル曲「結」に新たなリズムを加え、そのリズムが結び合って、流れるように展開していくのが大きな特徴です。

1樂章 縁《えにし》 縁《えん》があって太鼓をやり初め、それぞれ別々だった子どもたちの心は、一つのリズムによってつながっていきます。それに立ち向かっていく姿を表現します。

2樂章 絆 一人ひとりが点から線につながって一つになって、流れるようにリズムを表現していきます。そして絆が生まれ心に響かせます。

1.尚徳光風 輝《かがやき》(作曲/杉村聰) 【演奏時間 5'50"]

「光風」とは晴れあがった春の日にさわやかに吹く風のことを言います。緑豊かな田園風景が広がる尚徳校区の素直で純真な子供たちが、尚徳に吹き渡る「光風」のように、一歩ずつしっかりと歩んでいき、それぞれの個性を輝かせながら成長してほしいとの願いを、この曲に込めています。子供たちの風と輝きを感じて下さい。

2.burn.《バーン》(作曲/青砥宏英) 【演奏時間 6'30"]

burn.とは直訳すると「燃やす、燃焼する」となります。様々な理由と縁で一緒に太鼓を打つことになった子どもたち。やがて太鼓が大好きになり、仲間と共に頑張り一つ一つ課題を乗り越え、笑顔で目標に向かっていく。その燃える心、燃える思いをテンポの良いリズムと、大きな所作で表現しています。

1.鼓動ver.2(作曲/本田幸男) 【演奏時間 5'30"]

太鼓の魅力は何と言ってもその響きにあります。子どもたちの純粋で元気な心の響き、すなわち「鼓動」を太鼓で表現しています。穏やかなゆっくりとした「鼓動」、息づかいが荒い時は、「鼓動」がだんだん早くなっていきます。その中にそれぞれの子どもたちの異なる息づかいが聞こえできます。そんな子どもたちの小さくて大きな心の「鼓動」です。

2.遊奏(作曲/上田正雄) 【演奏時間 5'00"]

子どもたちは遊びの中でいろんなことを覚えていきます。楽しく演奏するこの曲は、子どもたちの遊び心を表現しています。無心に演奏する子どもたち。聞いているといつの間にか小さかったあの頃を思い出します。

1.やんちゃ囃子(作曲/本田幸男) 【演奏時間 3'00"]

がいな祭の「やんちゃパレート」で大人連、子供連、保護者が一体となり、練り歩きながら演奏する曲です。山車に太鼓、締太鼓、篠笛奏者が乗り、ほかのメンバーはうちわ太鼓、ササラ、鉦、鳴子の小物楽器を持って威勢よく演奏します。「洋」と「和」のリズムで構成されており一大絵巻が繰り広げられます。

※現在演奏している楽曲のみ掲載しています。
これまでのレパートリーはP78をご覧ください。